

太田東西かわら版

おんころころせんだりまとうぎそわか

2022. 4

「合格」の秘訣



植村君、3年ぶりに太田東西かわら版ネタに登場です！（笑）。
（3年前のかかわら版→[こちらから](#)）

「どこの高校にも進学できない成績です」
中学3年生の時、担任の先生に言われた植村君。
なるほど、確かにそれを裏付ける見事な「オール1」。

「末期がんで手の施しようがありません」。医者から宣告を受けたと同じ。
当時私は、正月返上で植村君に勉強を教えました。結果、合格を勝ち取り
無事に高校に進学することができました。

— 1 —

その植村君が、な、な、なんと！

今度はこの春、“大学生”になるのです！！(；°Д°)

高校生になってからは私が勉強を教えることもなく、真面目に通学していると耳にしていました。昨年、要所要所のタイミングで進路のアドバイスを送ったくらいで静観していましたが、まさか大学生になるとは・・・😅

植村君にズバリ尋ねました。

「どうして大学生になれたんだろう？」

彼は即答しました。

「太田先生と、そして麻亜耶のおかげです」



植村君は中学生の時から高校3年間もずっと麻亜耶を愛用してくれました。中学生の時→

表紙の写真は、最後の御礼のあいさつに来てくれた模様ですが、この日も麻亜耶を連れて帰ってくれました。大学生になっても“麻亜耶とともに”歩み続けてくれるそうです😁

特別、病気があるわけでもありません。

私が13年前に創作した漢方食品<麻亜耶>を継続服用していく中で、彼はその確かな手応えを感じ取ってくれたのです。

麻亜耶に乗せた想いは<絶対安心の母性>。

自分は守られている。安心の中に居る。だから大丈夫！という自己肯定感。これが物事を突破・解決できる秘訣となる。

10代で植村君は、人生を悟ったのです・・・(笑)

私はこの日、県外に旅立つ植村君に最後のアドバイスを送りました。

**「ほんとうに強い男というのは、自分の弱さをさらけ出せる男だ。
自分の情けなさ、みじめさ、みっともなさ。
それらを恥ずかしいからと隠さず、自分から相談に出向き、相手の話をきちんと聞いて、自分の中に落とし込んでいく。素直に行動に移していく。
植村君が大学にも合格できたのは、薬局で自分をさらけ出し続けたからだ。
そして学校の先生ではなく、太田先生の言うことを聞いて、学校の評価など気にせず、腐らずに頑張ったからだ。それは社会人になっても同じだ！」**

植村君は言ってくれました。

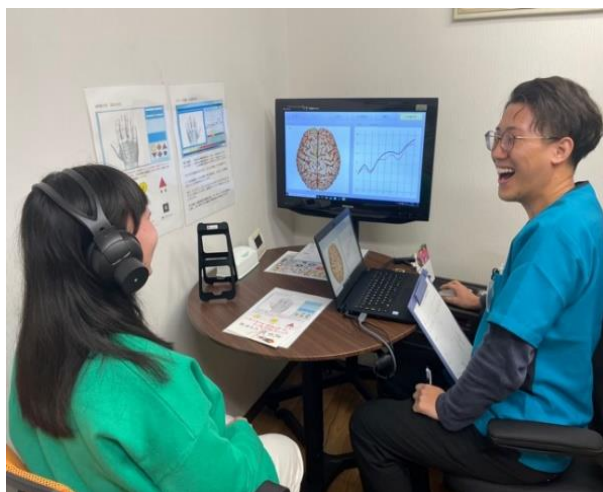
不信・不安を「自信・安心」に変える。それがく麻亜耶>です。

ということで、今回も植村君はかわら版で自分をさらけ出してくれました😊

さらに自分に向き合い続けて、「合格」を手に入れた高校生がいます。

Uさんは小学生の時から麻亜耶を続けてくれていて風邪を引いた時などは病院に行かず漢方で対処してきました。

それはもちろん、最初は親御さんの意向からですが、今となっては「親に言われたから」ではなく自らセルフケアの意識を持って薬局に来てくれています。



相談室の私の血流データだけではなく新しく薬局に導入したニュースキャンも利用して、若先生とともに**自分に向き合い続けました。**

不本意な試験結果の時、学友と自分を比較してネガティブになっている時、結果は真っ黒な脳になっていました。

認めたくないデータを素直に認めて受け入れて、自分を立て直す。

その繰り返しの中で、Uさんにいつしか“自分軸”が形成されていきました。

県外の大学に旅立つ前、御礼のあいさつに来てくれましたが、合格を手にしたニュースキャンでのUさんの脳は・・・美しく輝くゴールドイエロー！！🌟
以下、太田先生からの祝辞。

「漢方でセルフケアに努めている学生、血流計やニュースキャンで自分のデータと毎月向き合っている学生、学校の中でUさん一人だろうね(笑)。人と違うことを恐れず、これからも自分に向き合い続けて行ってください」

15年間、ボランティアでお客様のお子さんたちの勉強をみて来ましたがなぜ薬局のお客様のお子さんたちが合格を手にすることが出来るのか？学校から合格は厳しいと言われていても、それを覆せるのか？およそその答えがわかってきました。

合格を手にするお子さんたちは、太田東西薬局を利用することで学校で習わないことを教えてもらい、自分を知っていくのです。

受験というのは、猛勉強して記憶した知識を詰め込んだ脳を、受験会場で机の上に置いて行うものではありません(笑)。

受験当日、脳のパフォーマンスを最大限に持っていくためには、何よりも<心身の健康が必須>です。具体的には脳に十分な酸素とブドウ糖を供給する血圧、体温、血流、心臓のパワー、自律神経—ホルモンバランスなどが不可欠なのですが、学校も進学塾もそこには関心がありません。

例えば、ひどい生理痛があってそれが受験当日に重なった場合。

鎮痛剤を飲んで臨めば大丈夫！ではありません。眠気、吐き気、疲労感、胃痛血流障害（酸素供給低下）は鎮痛剤の副作用です。

痛みだけを抑えればいい。その安易な考え方が合格を遠ざけることになる。

一流の有名大学に合格・卒業できても、健康に対する意識が低く、自分のメンテナンスに目が向かない社会人が、うつ病をはじめとする慢性病に見舞われて混迷の人生になっている・・・25年間、この仕事を通じて感じています。だから私は、若いうちから<自分を大切に正しい健康の知識と習慣>を子どもたちに持ってほしいと願っています。

それは「親次第」であり、親の考え方・生き方が、子どもの生活習慣（特に食生活と睡眠）に反映されますから、親の意識改革が何より大切となります。

生きる上でまず必要なのは、<健康>であることでしょう。

しかし、多くの親たちは「子どもは健康が当たり前」だと勘違いしています。コロナ禍の今、子どもらしく過ごせない子どもたちは、大人たち以上に学校でストレスを感じています。マスク生活、外出自粛、友達との密禁止、黙食・・・。

学校の先生の言うとおりに、学力・偏差値のみを追求することは、どこか病院の先生の言うとおりに、検査データのみを追求することに似ています。アフターコロナでは、<多角的な視点と主体性>が求められます。